

2019年度地域における青少年の国際交流推進事業 委託事業

2019年度宮城県青少年国際交流推進事業

「サマースクール宮城・女川」

成果報告書



2020年3月

宮城県教育委員会

1 趣 旨

- 宮城県内外の高校生等に、「国境も言語も世代も超えた多様な出会い」を通じて、社会性や労働観を養い、自己を見つめ直し将来を真剣に考える機会を提供するとともにその成果を普及することで、みやぎの志教育を推進する。また同時に、外国語に親しみ、外国語への意欲と語学力の向上を図る。
- これからの復興を担う県内外の高校生・大学生が、海外の大学生に、現在の復旧・復興の様子を伝えるとともに、今後の復興についてディスカッションすることを通して、将来の宮城のあり方について考える契機とする。また、本事業を通じて国内外に宮城の復興の様子をアピールする。

2 事業実施体制 【別紙資料1】

(1) 実施体制

- ◎主催 宮城県教育委員会
- 共催 女川町、女川町教育委員会
- 協力 特定非営利活動法人 アスヘノキボウ
認定特定非営利活動法人 カタリバ・女川向学館
一般社団法人 HLAB

(2) 主催・共催・協力団体の役割

本事業は、「女川町」及び「女川町教育委員会」と共催するとともに、国際交流推進に係る各種プログラムを有する「一般社団法人 HLAB」（以下「HLAB」）と連携して事業を実施した。また、女川町における企画内容の構築や全体のプロジェクト運営におけるサポート役として「特定非営利活動法人アスヘノキボウ」（以下「アスヘノキボウ」）、及び女川町中高生との交流企画運営役として「認定特定非営利活動法人カタリバ・女川向学館」（以下「女川向学館」）も協力団体として加わった。さらに、自然体験活動及び防災教育の場として、「宮城県松島自然の家」（以下「自然の家」）と連携したプログラムを行った。

上記5団体と県教委とで実行委員会を組織し、適宜情報共有をしながら、それぞれの役割を明確化した上で、事業を推進した。

①宮城県教育委員会

- 本事業を主催し、全体の取り組みの企画運営に責任を持つ。また、事業実施に必要な協力主体を巻き込み、企画の進捗管理を行った。
- 県内高等学校に、サマープログラムに関する事前の広報活動を行った。
- 本事業の閉会式に、女川町の住民や関係者向けに報告会を実施する。また、参加高校生が、所属校等で高校生及び高校教員を中心に報告会を実施し、活動の認知度を広めた。

②女川町及び女川町教育委員会

- 本事業開催に際して、町の所有施設を開催場所として提供した。（女川町生涯学習センター、女川まちなか交流館、女川町勤労青少年センター）
- 震災からの復興・復旧を目指す人々や地元企業に働きかけ、各種プログラムにその人材を提供した。
- 町内においては、町の広報誌等で告知するなど、町内全域に情報が行き渡るよう積極的に広報活動を推進した。

③ HLAB

- 本事業の実施に向けて、海外大学生や通訳可能な英語力を有する国内大学生を組織化し、派遣した。
- 本事業の主たる企画及び運営を担った。

④ アスヘノキボウ

- 女川町の人材や地元企業に働きかけて、地元の商店街や地元企業でのワークショップ等を企画した。
- 期間中のプログラム遂行においてアドバイスやサポートを必要に応じて行った。

⑤ 女川向学館

- 女川町の中学生との交流プログラムを企画するとともに、当日及び事後のフォローアップを行った。

⑥ 自然の家（当日台風の接近に伴い中止）

- 登山、野外炊飯、キャンプファイヤー等の自然体験プログラム及び、防災ウォークラリーを企画・運営した。また、隣接する「東松島縄文村歴史資料館」と連携し、人と自然との調和について考える企画を行った。

3 事業実施期間 文部科学省委託契約締結時から令和2年3月6日まで

4 年間スケジュール

○2019年

- ・4月24日：第1回実行委員会 (女川町)
- ・4月27日～28日：国内メンター女川事前合宿1 (女川町)
- ・5月11日：第1回説明会 (宮城県庁)
- ・5月21日～23日：広報活動 (県内の高校へ広報活動)
- ・5月25日：第2回説明会 (宮城県庁)
- ・7月13日～14日：国内メンター女川事前合宿2 (女川町)
- ・7月19日：第2回実行委員会 (宮城県庁)
- ・7月20日～21日：自然の家事前合宿 (自然の家)
- ・8月12日：2019サマースクール宮城・女川事前準備 (女川町)
- ・8月13日～19日：2019サマースクール宮城・女川実施 (女川町)
- ・8月20日～21日：2019サマースクール宮城・女川事後研修 (女川町)
- ・9月～：参加高校生サマースクール報告会 (各高校等)
- ・1月19日：未来の青年の実践発表「アシタ宣言」に1名参加 (宮城県青年会館)
- ・1月24日：第3回実行委員会 (女川町)
- ・2月11日：全国高校生マイプロジェクトアワード2019北陸サミットに1名参加 (石川県)
- ・2月22日：全国高校生マイプロジェクトアワード2019東北サミットに1名参加 (宮城県)
- ・**3月4日：事業完了**
- ・3月28日：全国高校生マイプロジェクトアワード2019全国大会に1名参加 (東京都)

5 「サマースクール宮城・女川」の実際

○1日目 8月13日(火)

13:00 女川到着

14:00-15:00 開会式 (生涯学習センターホール)

- ・挨拶 宮城県教育庁生涯学習課長 嘉藤 俊雄
HLAB 実行委員長 白岩 頼育
- ・祝辞 女川町長 須田 善明様
アスヘノキボウ 代表 小松洋介様
- ・スピーチ 海外大学生 代表 Talha Erbilli
参加高校生 代表 樫村 真奈

15:00-16:00 アイスブレイク

16:00-17:30 入浴

17:30-18:30 welcome dinner]

18:30-22:00 セミナー

22:00-23:00 リフレクション

23:00- 就寝

【開会式】

緊張感の中、宮城県教育庁生涯学習課長 嘉藤俊雄及び実行委員長 白岩頼育の挨拶で「サマースクール宮城・女川」がスタートしました。高校生代表のスピーチでは開催地女川町出身の樫村真奈さんが、自身の被災経験と町の復興の歩み、変貌を遂げようとしている故郷への想いと戸惑い、その女川で開催されるサマースクールへの期待を堂々と発表しました。英語での進行や挨拶は、初めての経験となる参加者が多く、緊張と期待が入り混じった開会式となりました。最後にこの1週間への思いを込めた風船を、一斉に放ちました。



宮城県教育庁生涯学習課長挨拶



2019 サマースクール Miyagi・Onagawa
HLAB 委員長 白岩 頼育



高校生代表 樫村真奈 海外大生代表 Talha Erbilli

【アイスブレイク】

参加者の緊張をほぐすとともに、互いを知るアクティビティを行いました。英語での自己紹介から始まり、3種類の頭と体を使ったアクティビティを行いました。緊張感ただよふ場の雰囲気、活動を進める中で徐々に打ち解け、笑顔が出るようになりました。ハウス毎に行った、このアイスブレイクのおかげで、高校生がお互いに1週間のサマースクールに対して期待を高め合いました。



女川生涯学習センターホールでのアイスブレイク

○2日目 8月14日(水)

07:00-07:30 起床

07:30-08:30 朝食・「夢を語れ」ワークショップ

08:30-11:50 セミナー

12:00-14:30 まちなか昼食・街歩き

14:30-16:30 ディスカバー女川

16:30-17:30 入浴 (ゆぼっぼ)

17:30-18:00 移動

18:00-19:00 夕食

19:00-21:00 自己分析①

21:00-21:30 休憩・就寝準備

21:30-23:00 リフレクション

23:00- 就寝

【セミナー】

海外の大学生と日本人の大学生の2名がメンターとして大学での学びについてディスカッションするもので、多種多様なテーマの中から高校生は自分の関心に合わせて4日間自由に体験することができました。高校生にとって、新しい興味分野を発見する機会となりました。



ハウス毎のセミナーの様子

【自己分析】

リクルートキャリアの安田翔氏を講師に迎え、自己分析がどう生活に役立つか講演していただいた後。「自分の能力は生まれ持って規定されたものではなく、自分の努力次第で幾分にも変えられる」という”Growth Mindset”を基に、過去から現在までを振り返り、現在から未来へと思考を発展させ思考を発展させました。



リクルートキャリア
安田 翔氏



自己分析ワークショップの様子

【Discover Onagawa ワークショップ】

アスヘノキボウの後藤大輝氏から、2011年の震災後に女川がどのような変化をしてきたかに関するお話をいただいた後、オーガニック石鹸作り、スペインタイルの絵付け体験、スプレーアート体験、お茶ブレンド体験の4つに分かれてワークショップを行いました。震災後に女川で起業をしたり、女川で活動を続けたりしている方々のお話も聞き、「世界で一番チャレンジが生まれる町」と称される女川を実感する、貴重な体験となりました。



オーガニック石鹸作り



お茶ブレンド体験



スペインタイル体験

○3日目 8月15日(木)

07:00-07:30 起床
07:30-08:30 朝食・身支度
08:30-11:50 セミナー
12:00-14:30 移動・魚市場昼食・スタート女川
14:30-16:30 移動・自己分析②(自己マッピング)
16:30-17:00 移動
17:00-18:00 入浴(ゆぼっぼ)
18:00-19:00 移動・夕食
19:00-21:00 フリーインタラクション
21:00-21:30 休憩・就寝準備
21:30-23:00 リフレクション
23:00- 就寝

【魚市場昼食・スタート女川】

サンマやカツオの水揚げで有名な魚市場の見学をした後、とてもおいしい女川市場食堂の「女川丼」をいただきました。その後 START!ONAGAWA では、女川町教育委員の阿部喜英氏に、女川の過去、現在、そして未来についてお話いただきました。女川について深く知り、なぜサマースクールが女川で行われているのかを考えるきっかけとなりました。



女川市場食堂での昼食



阿部喜英氏による START!ONAGAWA

【自己分析②(自己マッピング)】

「もしも世界があと1年で滅亡するなら、あなたは何をしますか？」その問いをスタートに、普段の自分と、あと1年しかない自分を比べて「今本当にやりたいこと」を考えるワークショップをしました。あと1年しかないという条件を設けることで、お金や時間といった枠から外れた発想ができるため、高校生は本当にやりたいことを見つける手助けになったようです。それを実現するために出来る最初のステップまで考えられました。



自己分析②(自己マッピング)の様子

【フリーインタラクション】

全国的に、第一線で活躍している社会人の方々から、それぞれのキャリアについて話してもらいとともに、高校生、大学生、社会人が世代を超えて本音で語り合う場です。様々な業界で働く社会人の方々と交流できる機会は、高校生にとって自分たちの将来について考えるきっかけとなり、「人生の先輩方」から進路選択や自己理解に関して多くのアドバイスをいただき、宮城の「志教育」に直結した活動となりました。



フリーインタラクションの様子

○4日目 8月16日(金)

07:00-07:30 起床
07:30-09:00 朝食・身支度
09:00-11:00 CM企画（国内大生メンターセミナー）
11:00-12:00 CMフリーインタラクション
12:00-13:30 まちなか昼食・休憩・移動
13:45-16:00 アドベンチャーゲーム
16:00-16:45 タレントショー練習
17:00-18:00 入浴（ゆぼっぼ）
18:00-19:00 夕食作り（カレー）
19:00-21:00 ランタンナイト（リフレクション）
21:00-21:30 休憩・就寝準備
21:30-23:00 リフレクション
23:00- 就寝

【大学生フリーインタラクション】

フリーインタラクションは、これまで社会人が高校生に対して行う企画でしたが、悪天候で松島自然の家でのキャンプが中止となったことにより、代替案として大学生によるフリーインタラクションを実施しました。今大学で行っている研究やゼミの内容、今後の就職活動についての話など、高校生にとってより近い世代の大学生と、時間を忘れて対話できるのがこの企画の魅力です。夕焼けが星空に変わるまで、高校生は人生の大先輩と、今後の進路や生き方についてじっくり話し合いました。



大学生フリーインタラクションの様子



体育系の大学ゼミで行っているプログラムを体験

【アドベンチャーゲーム】

この日は、松島に移動しキャンプの予定でしたが台風の影響により中止となり、女川庁舎に移動し、アドベンチャーゲームを行いました。チームワークやものの見方が変わるようなきっかけとなり、結束も強まりました。この日のリフレクションでも、「アドベンチャーゲームによるチームビルディングによって、よりハウスの中で話しやすくなった。」との感想が寄せられました。



アドベンチャーゲームの様子

【夕食作り（カレー）】

本来なら松島自然の家でハウス毎に、釜戸で薪を焚いて、カレーライスを作る予定でしたが、悪天候のため女川町勤労青少年センターの調理室で、大学生と高校生の有志により、カレーライス作りを実施しました。女川町生涯学習課で勤務している職員の方々も応援に駆けつけて下さり、部活動の合宿で食事を自炊しているような雰囲気の中で、楽しく調理し、その後ハウス毎に、おいしく試食をすることができました。



大学生・高校生有志によるカレー作り

○5日目 8月17日(土)

07:00-07:30 起床

07:30-09:00 朝食・身支度

09:00-11:00 ハウス毎に振り返り

(「アシタ宣言」準備)

11:00-13:00 まちなか昼食

13:00-16:00 フォーラム

(講師：NPOカタリバ代表：今村久美氏)

16:00-17:00 入浴 (ゆぼっぼ)

17:00-18:00 夕食

18:00-20:30 女川未来学園

20:30-21:30 移動・休憩・就寝準備

21:30-23:00 リフレクション

23:00- 就寝

【ハウス毎に振り返り（「アシタ宣言」準備）】

今年度は、昨年度までとは違い、閉会式は終了を意味するものではなく、新しい自分への出発を表すものと設定しました。それで、閉会式の後半は「アシタ宣言」と称し、これまで高校生がこのサマースクールで学んだことについて、自分なりに受け止め、新しい価値に気付き、今後の目標や夢に向かってどのように取り組むか宣言をする時間を設けました。その「アシタ宣言」に向けて、ハウス毎にこれまでの学びを振り返り、各自が整理する時間を設けました。これまでのサマースクールの課題としては、インプットが多すぎて、自己開示をする時間が足りないということが上げられていました。「アシタ宣言」はサマースクール全体にとっても新しいチャレンジです。高校生の中からどんな目標や夢が出てくるのか、とても楽しみです。



ハウス毎の振り返りの様子

【フォーラム】

フォーラムは、社会人として第一線で活躍されている人々による講演とパネルディスカッションで構成されている、サマースクール全体の中でも目玉企画です。今年度は認定NPO 法人カタリバ代表理事の今村久美氏にお越しいただき、今村氏の大学時代の地方から上京した経験をもとに、社会における教育機会の不平等さや、それを改善する方法について、認定NPOカタリバがどのような実践を行っているかについて、お話をいただきました。今村氏からは、「サマースクールを贅沢な一夏の学びに終わらせることなく、学んで得た新しい知見を社会の中で実践し、還元できる社会人になって欲しい。」との熱いメッセージを高校生と大学生にいただきました。



今村氏によるフォーラム



終了後は、女子参加者による質問が目立ちました



終了後の気付きから、全国高校生マイプロジェクト北陸大会、宮城大会参加者等も生まれました。

【リフレクション】

毎日夜就寝前にハウスごとに今日の振り返りをするとともに、自分の思いや考えを語り合うものです。最初は英語で話すことや、自分の思いを表現することができずに、なかなか話し出せない高校生もいましたが、大学生の巧みな通訳や支援により、自分を出すことができるようになってきました。

思っていること考えていることを表現することで、自分の考えをまとめることで、参加者は徐々に価値観や内的キャリアを確立することになります。サマースクールではハウス毎の安心感や信頼感を基礎としたこのリフレクションの時間を、とても大切にしています。



ハウス毎に行われたリフレクション

【向学館企画】

NPO 法人カタリバと共催のもと、女川町の中学生とHLAB の海外大学生が交流しました。海外に新しい友達ができたといい経験から中学生が新しい挑戦を始めることをこの企画の目的とし、簡単な英単語やジェスチャーを使いゲームを行いました。最後には自由にお話をする時間を設け、緊張しながらも海外大学生に質問をする姿が見られました。事後アンケートでは、「海外の方と英語で話すことが初めてだったので、とても楽しかった。」、「知っている単語だけでもきちんと話すように頑張った。」、「相手からの質問を理解できるように頑張った。質問は理解できたが、自分の考えたことを伝えることができなかった。」、「もっと英語を話せるようになりたいと感じた。」との感想が寄せられました。



向学館企画の様子

【女川未来学園】

女川町に住んでいるゲストの方々を12名お呼びし、パネルディスカッション（「職員会議」PART）と少人数形式のインタラクティブ（「部活」PART）を行いました。ゲストの方々には「顧問」として、お一人ずつ変わった名前前の「部活」を持っていただき、高校生は興味のある顧問の先生のお話を「新入部員」として聞き、熱いパッションを持った顧問の先生方との交流を輝いた目で楽しみました。



「女川を楽しくする部活パート」の様子



「職員会議パート」の様子



* 村上教育長と高校生との被災地教育についての議論は、終了時刻ぎりぎりまで盛り上がりました。

○6日目 8月18日(日)

07:00-07:30 起床
07:30-08:30 朝食・身支度
08:30-11:50 セミナー
12:00-14:00 移動・女川ふれあいランチ
14:00-17:00 タレントショー
17:00-18:00 ホームカミングディナー (夕食)
18:00-19:30 お風呂・移動
19:30-21:00 リフレクション
21:00-23:00 フリータイム
23:00- 就寝

【ホームカミングディナー】

サマースクール終了後も人と人が繋がって
られるコミュニティ、というHLAB の特徴をまさ
に体现した企画です。今年も多数の過去参加者が
参加してくださり、今年の参加者と有意義な交流
ができました。過去参加者のサマースクール後の
体験談に熱心に耳を傾ける参加高校生たちの姿
が印象的でした。



ホームカミングディナーの様子

【タレントショー】

高校生と大学生が自分の得意なところを発表する
企画です。自分の可能性をこのタレントショーでさ
らけ出して、新しい自分を発見しようとするもので
す。今年は歌、ダンス、マジック、合奏など幅広い
個性を表現してくれました。さらに、高校生が完全
に主体となって作り上げた女川ギネスチャレ
ンジ、バンド演奏も会場を大いに盛り上げてくれ
ました。この場をきっかけに一歩を踏み出す、行
動を起こす大切さを学ぶことができました。



タレントショーでのバンド演奏の様子



女川 須田町長のギター



大学生によるドラム



タレントショーを盛り上げる高校生の様子



終始盛り上がりを見せたタレントショー

○7日 8月19日(月)

- 07:00-07:30 起床
- 07:30-08:30 朝食
- 08:30-09:00 荷造り・移動
- 09:00-10:00 荷物運搬・閉会式準備
- 10:00-13:00 閉会式兼報告会

- ・挨拶 宮城県教育庁生涯学習課 社会教育専門監
齊藤 直
- ・祝辞 女川町教育委員会教育長
村上 善司 様
- ・スピーチ 国内大学生 代表 河田 英貴
参加高校生 代表 大野 勇介

- 13:00-14:00 Farewell Lunch
- 14:00-15:00 後片付け・高校生バス見送り

【閉会式】

この1週間を振り返るエンディングムービーの上映から始まり、その後ハウス毎に大学生から高校生に終了証を授与しました。

その後、今年度の閉会式では、「閉会式は終わりではなく、新たな始まり。」という考え方から「明日宣言」というタイトルで、参加者だけでなくお世話になった女川町の皆様にも参加していただき、報告会も兼ねて実施しました。「アシタ宣言」では、大学生や仲間への感謝の気持ちや、この1週間で学んだこと・感じたこと、将来の夢への宣言等、思い思いに発表し合っていました。

「ここがゴールじゃない。ここが、スタートだ。」

参加者が未来への手がかりを、宮城・女川で掴む1週間となりました。



女川町教育長 村上 善司 様による祝辞



国内大生 河田 英貴



海外大生 Zach Sebek



高校生代表 大野 勇介



閉会式終了後の集合写真

6 成果報告会

(1) HLAB 年次総会における成果報告会 (HLAB 主催) 一般社団法人 HLAB が 4 地区合同の成果報告会を行った。サマースクール宮城・女川参加高校生 20 人, 保護者, 企業, 教員, 大学生他 350 人

※女川参加高校生 20 人×350 人=7,000 人

(2) 「サマースクール宮城・女川」閉会式兼活動報告会 (宮城県主催)

サマースクール閉会式の一部として, 参加者の感想や決意を「アンタ宣言」という形で発表した。高校生 60 人, 大学生 40 人, 参観者 30 人, 計 130 人

※参加高校生 60 人×130 人=7,800 人

(3) 参加者独自の発表会

聖光学院高等学校, 桐朋高等学校, 古川学園高等学校, 仙台第二高等学校等, 延べ 24 校で, 国際交流に興味のある教職員や生徒に対して活動報告会を行った。

また, 1 名が英会話塾や学習塾で活動報告会を行い, 1 名が自宅で保護者や友達を招いて報告会を行った。

さらに, レポートや学年通信, 回覧板, 掲示物で報告した高校生も含めると, 延べ 31 名と半数以上の生徒が活動報告を行い, 参加者独自の発表会では 2,960 名に報告することができた。

○ 1 人当たり平均 217 人 (合計 17,660 名)

※ (7,000 人+7,800 人+2,860 人) ÷ 60 名=約 294 人

7 成果と課題

(1) アンケート調査 (要素毎) の比較から

事業実施前と実施後の, 参加者の語学力, 主体性, 外向き思考等を測るアンケートを開会時と閉会時に実施した。特に著しい変容結果が表れたのは, 参加者の語学力, 責任感・使命感, 外向き志向であった。外向き思考に対する意識は, 事前と事後の比較が 109% と最も高かった。

要素	観 点	事前	事後	比 較		達成度	
I-①	語学力	8.05	8.53	0.48	106%	2.14	71%
I-②	コミュニケーション能力	9.32	9.52	0.20	102%	2.38	79%
II-①	主体性・積極性	5.68	5.75	0.07	101%	1.91	64%
II-②	チャレンジ精神	6.60	6.70	0.10	102%	2.23	74%
II-③	協調性・柔軟性	6.57	6.62	0.05	101%	2.20	73%
II-④	責任感・使命感	6.33	6.87	0.54	108%	2.26	75%
III-①	異文化理解	6.00	6.22	0.22	104%	2.07	69%
III-②	日本人としてのアイデンティティ	5.55	5.72	0.17	103%	1.90	63%
	外向き思考	7.87	8.57	0.70	109%	2.86	95%

○各項目について, 「とても思う 3 点, 少し思う 2 点, あまり思わない 1 点, 全く思わない 0 点」として集計したもの。(達成度は満点が 3.00)

① 成果

○外向き思考, 責任感・使命感, コミュニケーション能力の値が相対的に高い。

事後アンケート: 外向き思考 2.86 (95%), 責任感・使命感 2.26, (75%)

(達成度) コミュニケーション力 2.38 (79%) (*達成度の満点は3.00)

○本事業での活動を通して, 語学力, 責任感・使命感, 外向き思考が大きく上昇した。

・語学力 0.48 上昇, 責任感・使命感 0.54 上昇, 外向き思考 0.70 上昇

○様々な分野で活躍される社会人からの講演や, 海外大学生とのディスカッションの中から, 「やらなければならないこと」だけではなく, 「やりたいこと」を探し, その中から夢を見つけ, 自分の夢等に向かって挑戦しようとする意識が向上した。

○1週間に渡る英語に浸る経験を通して, 英語に慣れ, また, 非言語的なコミュニケーション能力も成長したことにより, 逆に語学力に自信を持った様子が見える。

○総勢100人の共同生活を通して, 掃除や食事の当番などの仕事をするることにより, 責任感や使命感の数値も大きく上昇した。

② 課題

○「異文化理解」「日本人としてのアイデンティティ」が, 他と比べて低い。活動の中で和太鼓や法印神楽等の日本の良き伝統文化に触れるとともに, 海外の文化を感じることでできるプログラムを加えていく可能性を今後考えていきたい。

(2) 参加者の感想から

参加した高校生の感想から, この1週間で大きな成長があったことが感じられた。以下に, 主なものを挙げる。

○ リフレクションでは, 全員が本気で自分の事で悩み, 他の人の事でも悩むことはこれまで一度もなかったもので, 一番学びになった。

○ リフレクションでは, インプットとアウトプットがバランスよくでき, 信頼できる仲間も作れて, 雰囲気も暖かかった。

○ 自己分析ワークショップは, これまで自己分析について経験がなく, とても興味深かった。

○ 大学生フリーインタラクションでは, 自分の進路や将来に関して, 大学生が本気で相談に乗って下さり, 参考になった。

○ フリーインタラクションでは様々な大人の意見が聞けて, 今後の人生について一番考えさせられた。

○ セミナーでは, 海外大学生がどのように学ぶ機会を得ているかと, どのように学んでいるかが分かった。同じハウスで, 自分も海外の大学生のゼミに入り, 課題を解決する疑似体験の学習ができ, 楽しかった。

○ (株)高正の高橋社長の話を聞き, 震災を「自分事」として考える機会をもらえた。また, 仕事のイメージも自分の価値観と合っていた。

○ 海外大学生との文化の違いや, 考え方の違いを知ることで, 自分の視野を広げることができた。

○ 学ぶことの意義を知り, 今後の進路選択で生かしたいと思った。また, 自分の進路選択の理由を, 自信を持って自己開示できるようになった。

○ 自分から何かをしたいと思えるようになって, 積極的に人前で話せるようになった。

○ 今までの自分の価値観の中だけで固まっている考え方ではないものと触れることができ, 自問自答ができるようになった。

- 多様なバックグラウンドをもつ友達、海外大学生メンター、国内大学生メンターに出会え、自分の聞きたいことがいつでも聞けてよかった。
- 多様な価値観にふれ、一度頭の中がぐちゃぐちゃになりましたが、その後深く考えられるようになり、自分を成長させることができました。
- 参加する前はただの英語合宿だと思っていたところ、進路に関することや自分の考えを共有できる場で、とても有意義だった。

【成 果】

- 期間中参加者は、高校生6~7名、大学生スタッフ3名、海外大学生2名より構成される“ハウス”と呼ばれる班単位で行動する。ハウスの仲間たちと、食事や各アクティビティの全てを共同で行うため、自然と会話が生まれ絆が深まる制度となっている。
- 少人数セミナーでは、エール大学、コロンビア大学をはじめとした海外の大学の学生によるリベラルアーツの講義を英語で行った。多様な学問分野をテーマに行うセミナーの受講を通して、参加者は興味の幅を広げたことに加え、少人数制の講義であるため、会話する機会も増え、参加する全高校生が必ず自分の言葉で自分の意見を発信することができた。
- 地域密着型のワークショップ (Discover Onagawa ワークショップ) では、女川向学館の協力のもと、女川の中学生在が、海外の大学生メンターが交流する企画を行った。女川の中在校生にとって、普段は接点のない海外の大学生とふれあうことによって、価値観や文化の違い等に気付くよい機会となった。
- 地元企業へのインタビューでは、女川町内で起業している方々や、地元水産業に従事している方々へのインタビューを行うことで、震災からの復興にかける思い等に触れるとともに、その思いを報告会等で全体に伝える経験を通して、熱い思いや考えをアウトプットすることの大切さを感じさせることができた。
- 「夢を語れ」ワークショップでは、女川で「夢を語れ」という店名で、ラーメンショップを経営する山崎氏を講師に迎え、大きな夢でなくてもいいので、主体的に「やりたいこと」を思い浮かべ、それを実現するために行動する毎日を送ることが、最終的には夢を叶える行動であることを実感するワークショップを行った。高校生は「夢」というと社会的に価値がある仕事等大きな志を伴うものと考えていたが、まずは「やりたいこと」といったようにハードルを低くすることで、行動が主体的になるという感覚を養うことができた。
- 女川町へのチェックイン当初や、開会直後は、自分から積極的に自己開示できない、あるいは慣れない英語で積極的に話すことができないなど、緊張してチャレンジができない場面が多く見られたが、数多くのゲストとの会話や、自己分析ワークショップ等のアクティビティーや、海外大学生との交流を通じて安心することができ、少しずつチャレンジすることの楽しさを学んでいく様子が見られた。
- 異なるバックグラウンドをもつ参加者が一箇所に集まり、共に生活することで、それぞれが互いに良い影響を与え合う好循環が生まれた。
- 県外参加者には、既に海外での短期留学の経験がある高校生がおり、その高校生との対話や交流により、国内だけでなく海外へ視野を広げる参加者がいた。一方で、県内参加者、特に女川からの参加者(2名)は、地域に根ざした活動を経験してきており、自分の住む地域への理解を深めることの大切さを訴えていた。このように、グローバルとローカルが交差するよい学びとなった。
- サマースクール中盤に行われた女川町の中在校生との交流企画では、海外大学生が中学生達に少しでも学びを届けられるよう積極的に話しかけ、国際交流が生まれていた。やや受身的なところも見られたので、今後改善していきたい。
- 被災地女川町で復興・復旧に取り組む地域の方々や起業家、行政の皆さんと直接ふれあい、女川にかける熱い想いを感じることで、郷土愛を培うとともに、被災地宮城の復興に少しでも役立とうとする気

持ちが芽生えた。

- 松島自然の家での活動は台風により中止になったものの、チームビルディングのためのアドベンチャープログラムを行い、ハウス毎の団結がさらに強くなった。
- 閉会式では、高校生一人一人が大勢の聴衆の前に自ら立ち、サマースクールで学んだことや、これからどんな大人になっていきたいのか、自分の人生をどのように過ごしていきたいのか等について「アシタ宣言」というタイトルを付け自己開示をさせた。

【課題】

- 協力団体である HLAB のプログラムだけではなく、宮城県及び女川町の被災地としてのメリットを生かしたプログラムを多く企画し実施した。来年度はさらに女川町の伝統芸能等を取り入れ、ローカルで活躍する地元の大人のよさにも触れさせたい。
- 連日の猛暑や、過密なスケジュールで参加者及びスタッフに体調不良が出るのではと心配されたが、全員元気に全プログラムを経験することができた。ただ、睡眠と清掃が行き届かず、喘息の症状が出る高校生がいた。次年度は余裕をもったスケジュール、栄養のバランス（特に野菜）を考えた食事の提供、参加者及びスタッフの体調の管理について、細心の注意を払ったものとした。
- 閉会式の中で成果報告会を行うとともに、参加した高校生が所属する高校でのホームルームや学年集会等を生かした報告会、宮城県青年団連絡協議会が毎年1月に行っている「青年問題研究会」と合同開催した『未来の青年の実践発表「アシタ宣言」』への参加、NPOカタリバ主催の日本各地で行われている、「全国高校生マイプロジェクトアワード」への参加等、事後研修が充実した。一方、大学生メンターの、サマースクール参加高校生の事後活動を支援する体制作りは、今一歩であった。来年度は、高校生が本事業で得た知識や体験、意欲や価値観を生かし、自ら気付いた「課題」を「探求」し、自分も含めた身の回りの誰かのために行動する「探求活動」を事後活動として設定したい。この探求活動が盛り上がりを見せるためには、本事業の大学生メンターが高校生の伴走者（指導助言者）となり、高校生の主体的な探求活動と発表の機会をコーディネートする必要がある。次年度はサマースクールの開催中に、ハウス毎に高校生がどのような報告会を行いたいのか聞き取りをし、大学生メンターがそれぞれ事後の探求学習と報告会に意欲的に取り組めるよう工夫していきたい。

8 事後活動の紹介

(1) 事例1

(FB: フェイスブック)



【今村氏の講演後の質問コーナー】

【AさんのFBによるアンケート】

【Aさんのマイプロ東北大会発表】

東北地方の県立進学校から本事業に参加したAさん（2年）は、本事業のフォーラムで、NPOカタリバ代表今村氏の講演、「これもひとつの私の場合の話」の中で、「高校生の時は地元を早く出たいと思っていたのに、今は地元の素晴らしさに気付き、地域の教育課題の解決に取り組むNPOを立ち上げ仕事としている。」との講演内容に感銘を受け、若者と地元との繋がりを考える「地元に誇りを！」というプロジェクトを事後活動として行い、全国高校生マイプロジェクトアワード東北大会に参加した。

(2) 事例2



【夢を語れワークショップ】



【夢を語ってグッジョブ!】



【夢を叶えるために夢をかたれ】

* 高校生の「夢」の発表を見守る
山崎氏

参加高校生は、女川で「夢を語れ」という店名で、ラーメンショップを経営する山崎氏の、「大きな夢より、やりたいことのある毎日が大切」というワークショップを行っていただいた。そのワークショップで、感銘を受けた県立進学校のBさんは、「今までやらなくてはいけないことを優先し、やりたいことを後回しにしている、何をやるにも義務感に捕らわれていた。これからは夢を語り、主体性を身につけてから、夢を実現するためのやらなくてははいけないことを頑張りたい。」という発表を、県教委主催「未来の青年の実践発表『アシタ宣言』」で行った。Bさんの発表は、こう締めくくられた。「私の夢は、世界中の子供が、戦争や飢餓、いじめなどの悪い環境のせいで、夢と命をあきらめることがない世界を作ることです。」

(3) 事例3

県立進学校から参加したAさんは、本事業に参加したことにより生じた自分自身の変容について、地域の新聞に投稿し、回覧板や公民館のフリーペーパーコーナーで以下のような感想を発信した。



【女川未来学園やワークショップに、意欲的に参加する参加者】



【本事業の内容を地域の回覧板に掲載】

「あなたのしたいことは何ですか？」この問いに答えられますか。私はHLABに参加する前は答えられませんでした。HLABというのは、高校生に向けて企画されている夏のサマースクールです。4つの都県で行われ、全国の高校生がそれぞれ60人程集まり、日本や海外の大学生と1週間合宿をします。ここでは自分が将来やりたいこと、心に持っている悩みを語り合います。

自分が何に興味があって、何がしくて、どのような体験でどんな気持ちになるのかを理解することが大事だと分かりました。私は将来何をしたいのかを見つけるために参加しました。私は英語を使って仕事をした

く、漠然とでしたが将来外交官になりたいと思っていました。しかしどうして外交官になりたいのか自分で言語化できませんでした。……(略)

幸いにもHLABには色々バックグラウンドを持った人たちが参加していました。(略)「この人はこんなことが生きがいで、あの人はあんなことを大切にしているんだ。」と知り、感動し、泣く。HLABでたくさんの人を知ることによって、自分がどのように生きていきたいか、少しは分かった気がします。

今私は、英語を使いたいという気持ちが大きく、英語を喋っているときは楽しいので、英語と心理学の両方学びたいです。HLABありがとうございました。

